

ある日の育児日記から

(54)

佐藤 和代



敬が失業して以来、圭と有はお父さんの送り迎えて保育園へ。私は朝も楽だし、帰りもあわてなくてすむので大助かり。…と思っていました、このごろ不思議と物足りない気分です。

自転車の前と後に子どもを乗せて、坂の多い道を二十分も走るのは大変。でも、朝と夕方のこの時間、けっこう貴重なものだったようなのです。

朝、家を出るまでは本当にあわただしい。食事、着替え、トイレ、持ち物の用意。おたより帳を書いて、自分の仕度もして。でもどんなにバタバタしても、自転車で帰れば会話が戻っ

てきます。坂道はどうしたってゆっくり行くしかないから、道端のものだってちゃんと見えます。花の名前を教えたのも、虫や鳥を探したのも、みんなこのとき。もっと保育園が近かったら、いつも思うのですが、朝のバタバタした気分のまま別れるよりは、ずっといいのかもしれない。ゆっくり子どもと話せる時間って、ありそうでいて、なかなかないし。

そして、保育園に着いたら先生やお母さんたちと「おはよう！」とエール交換（のごときあいさつ）をして、仕事へ。このリズム、捨てがたいものがあるのです。そろそろ送り迎えるのは、お父さんから取り返そうかな。



圭にあやとりを教えたら意外ほどもみつきに!